

つなぐ

ふるさと宇和島／南予

秋号

2023 No.24

ご自由にお取りください



特集

愛媛県指定無形民族文化財

未来につなげ吉田秋まつり神幸行事

インタビュー「私のマーマレードを宇和島の特産品にしたい！」 Citrus-Line (シトラスライン) 代表 清家 修造

◇Topics / 桐朋学園と山下亀三郎の縁

つなぐ 2023 September 秋号

C o n t e n t s

- 01 エッセイ 「時代は変わる」 吉田 淳治
- 02 インタビュー Citrus-Line (シトラスライン) 代 表 清家 修造
「私のマーマレードを宇和島の特産品にしたい！」
- 04 特 集 「未来につなげ吉田秋まつり神幸行事」
- 06 吉田秋祭り—民俗文化財としての価値— 大本敬久
- 08 立間鹿の子 赤松宗治
- 09 祭りの花形「練車」について 廣瀬岳志
- 10 吉田陣屋町の歴史と「ブラ防さんぽ」の活動 杉田和男
- 11 他の行事や練物 監修 渡邊 晃
- 14 Topics 桐朋学園と山下亀三郎の縁
- 16 「山下亀三郎と山水と桐朋」
- 19 いのちのはなし
ゲーチョコキパー 5 「つながつてる！」 文/毛利 弘子
- 20 文ちゃんとどつぽの 予土線のあの人に会いたい 5
- 22 南予の祭り歳時記 —太刀 vs 鎌の郷土芸能— 愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員 大本 敬久
曾根の天神花踊
- 23 撮り歩きなんよ 泉ヶ森からの夜景 写真家 北濱 一男
- 24 医 療 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の対応 沖内科クリニック 副院長 沖 良隆
- 25 食めぐり 愛情込めて作る「ふるさと味の味」について 管理栄養士 柑橘ソムリエ 和田 広美
シーフードマイスター
- 26 お気楽 俳句 小野 更紗 絵/律川 エレキ おすすめ本/岩崎書店
- 27 つなぐ美術館 ベにばら画廊/アトリエぱれっと
- 28 うわしん若手経営塾OB 若だんな 12 浅野石油店 取締役 浅野 太洋
- 29 斗酒百篇 / 4コマ漫画「きさいやくん」



表紙 / 「秋のフクロウ」
作 / ありま三子

プロフィール

1987年生まれ 愛媛県宇和島市出身
子供の頃から絵を描くことが好きで、大学の卒業制作で、しかけ絵本を作り、それから絵本に興味を持つ。2016年第8回 be 絵本大賞受賞、絵本作家デビューを果たす
現在は個展やイベントへの出品等で活躍中



とんぼ (撮影/北濱一男)



つなぐ秋号 No.24

〒798-0041 宇和島市本町追手 2-8-21

0895-23-7000

年4回発行 (季刊誌)

配布先 / 宇和島信用金庫各営業店ほか

発行 / 宇和島信用金庫

編集・構成 / 業務推進部 広報文化室 川尻純滋

本誌掲載内容の無断転載を禁じます

宇和島で古くから営んでいたある店が2月に閉じた。看板は「ジャズ喫茶」だが、色分けのない独自の選曲の音楽が常に流れていた。カウンターの隅に座って深夜まで安ウイスキーを飲みながら話をしたり、絵を描いたり、30年以上も足しげく通った店だった。マスターとは親しくとも馴れ合わず、互いに少しの遠慮や緊張をもって接してきた。週に2日余りも顔を合わせていたのだから、これまでに一番長い時間を共有した人ということになる。

ところが5年ほど前、積もり積もった僕の中にあつた微妙な感情が、大したきっかけもなくプツンと小さくはじけ、以来ピタツと足が向かなくなってしまうていた。そこへのマスターの計報だった。僕は「そうか・・・」と、なぜか動揺もせず受け入れた。同世代の終焉が身近になつてきたせいもあるのだろうが、何か予感のようなものもどこかに。しかし、やはり寂しさはある。

別れのかたちはいろいろだろう。深いつながりからの身を切られるような別れや、重苦しい別れ。そうでなくとも、長年頭を刈ってもらった床屋や、いつも立ち寄る本屋やタバコ屋との別れ。そんな慣れ親しんだところが突然なくなり、日常の習慣が途切れた時のちょっとした狼狽は誰しもあるに違いない。

時代は変わる

The Times They Are A-Changin'

吉田 淳治



撮影
筆者

各々が生きる時代の体臭に寄り添った現場は、当然ながら永遠に続くものではない。増してやこのところの変化は人を置き去りにして加速するばかり。今、はどんどん過去に遠のいてゆく。僕くらいの年齢になると、自分が生きた時代というものを俯瞰できるようにするが、その頃にはもう若者たちが次なる時代をつくっているのだろう。

だが、急激に変貌する世の中にあつても、マスターは毎日店を開け、内ではヒリヒリするようなしんどい生き方を変えない人だった。自らのアクで自家中毒を起すような場面もあつたが、たとえ意思疎通できない客であろうと、あくまで自説を曲げず、攻撃すら厭わない。もちろん彼の個としての気質ではあるが、かつて「論争」というものが幅を利かせた時代を彷彿とさせたままの人であつた。

続けて亡くなつてしまつたが、大江健三郎や坂本龍一が世の危機的状況を憂い懸命に声を上げて、大きなウネリにはつながらないように、この国の人たちは何事にも顔を出して抗おうとはしなくなった。そんな世相とは程遠いままに、この小さな町の小さな店で論争を繰り返して旅立ったマスター。果たして今、現世での逃れようのなかつた呪縛から解放されたのだろうか。それとも未だ閻魔大王がなんとかとやり合っているのか。

人が生きるのは、人類の歴史に照らせばたかが100年だが、1000回季節を巡るとすれば長い一生でもある。時代は動くが、身を任せるばかりではなく、一日一日新鮮な空気を吸い、何かに感応し、生きている間を生きる。僕などは、そのあたりまえを見つめるしかないと思えてくる。

様々な世代の人たちが軽い気持ちで手に取る冊子「つなぐ」。このような紙面に、いい歳をしたものが感慨めいた文章など連ねてもどうかとも思つたが、この地で一つの時代を画した一軒の店があつたことを記しておきたかつた。



画家 吉田淳治 よしだ じゅんじ

全国各地のギャラリーにて個展を中心に活動。他に美術館等による企画展。画集3種、エッセイ集2種の刊行がある。「アトリエ堀端絵画教室」主宰。

<https://junji-yoshida.webhop.info/>



「私のマーマレードを宇和島の特産品にしたい!」

Citrus-Line (シトラスライン)

代表 << SEIKE SYUZO

清家 修造

マーマレードに惚れ込み、市役所を早期退職し、ゼロからジャム工房を立ち上げた波乱万丈の人生をシトラス・ライン代表の清家修造さんにかがった。

子どもの頃からモノづくりが好きだった清家さんは、大学卒業後、東京のアクセサリー会社に就職し、工房長として何人かの部下を持つまでになるが、一人息子の宿命で両親から「宇和島へ戻って市役所にでも入れ」と説得されリターンを決意する。とは言え、そう簡単に市役所に就職できるはずもなく、宇和島市内の企業に勤めながら、3度目の受験でようやく合格通知を受け取った。

入庁後は、税務課を皮切りにキャリアを積み上げて行くが、平成13(2001)年2月10日「えひめ丸事故」が発生する。当時、総務部の危機管理の担当だったことから、「3、4日ほどで帰国できるだろう」と出張命令が下り、事故の翌日、ハワイ行きの飛行機に飛び乗った(結局、滞在は21日間にも及んだ)。

この事故をきっかけに「人生一度きり、何がおこるか分からない」という思いを大きくしていった。

その後、商工観光課、愛媛国体準備室などを経て宇和島を売込む産業

未来創造室に配属され、平成28(2016)年、宇和島の柑橘類に興味のある東京の企業からお土産でもらったマーマレードを食べて衝撃を受ける。

「マーマレード」と言えば、給食にでてくる不味いやツしか食べたことがなかったんで、その美味しさに驚きました」以降、マーマレードについて色々と調べるようになる。

そんなある日、出張で搭乗した機内誌に「アルザスお菓子紀行」という特集にマーマレードについて紹介されていた。さらに、それから間もなくして、「フランスのアルザス地方のクリスマスマーケットに行ったら、宇和島真珠を売込んでこい」という業務命令が下る。

「同時期にベクトルが『アルザスジャム・マーマレード』に向いている、これは神様のお導きだと勝手に思い込みをしてしまいました」

そして、長年の夢(モノづくり)を実現するべく、平成29(2017)年3月、26年間勤務した市役所を55歳で退職した。退職直後からマーマレード作りの研究を独学で始め、その年の6月には渡仏し、アルザス地方を巡りホームメイドジャムについても見聞を深めた。

実は、マーマレードに憑りつかれ

るキツカケになった、先述の東京の企業が宇和島と一緒に加工施設工場を建設する計画があつて、そこでジャム作りをするはずだったのだが、計画は頓挫し立ち消えになってしまった。とはいえ、退路を絶ち志を立てた以上、簡単に諦められるはずもなかった。

そんな時、地元農業法人と6次産業化の取り組みについて話がまとまり、さっそく、知り合いの農家の空いている研修施設を借りて、ジャム類の本格的な試作を始めた。

試作品は好評だったが、やはり客観評価を受けようと、令和元(2019)年5月、八幡浜市で開催されたダルメイン世界マーマレードアワード日本大会アマチュアの部に出品したところ、「橙」が銀賞、「シークワサー」が銅賞を受賞し自信を深めた。

しかし、平成30年7月豪雨の影響で6次産業化の話も立ち消えになってしまふ。こうなったら、自分で工房を開くしかない。

2020年のダルメイン世界マーマレードアワード英国大会(ホームメイド部門)にも出品し、2点が銅賞を受賞する。更に翌年の同日本大会(ブロの部)では「柚子」が金賞、他の2点も銀賞と銅賞を受賞し、新

聞等にも取り上げられた。

そして、令和2(2020)年6月11日、Citrus-Line(シトラスライン)を開業し、その2年後、イギリスで開催された世界大会(世界40か国から3千点以上の応募があつたの職人部門で「金賞」を受賞する。

宇和島は、全国的な柑橘産地でありながら、今までマーマレードの特産品はない。日持ちし、オシヤレで女性にも人気があるマーマレードは、宇和島の新たな名産品になる可能性は十分にある。しかも、Citrus-Line(シトラスライン)のマーマレードやジャムは、原料は宇和島産で無添加というこだわりがある。

「ジャムやマーマレードは素材も味も様々、出来れば試食して自分の好みにあつたものを見つけて頂きたいと思います。たとえ金賞を受賞したモノでも好みに合わないかもしれません。なので、受賞、云々というよりも、金賞をとれるレベルの製品が作れる工房というお墨付きをいただいたと考えています。今は、一人なので製造数も販売店も限られていますが徐々に増やしていつか、Citrus-Line(シトラスライン)のマーマレードを一人でも多くの人に味わって頂きたいと思っています」

インタビュー・構成/川尻純滋



清家修造 1961年 宇和島市生まれ 大学卒業後、東京目黒のアクセサリー会社に入社。プロダクトデザイナーとして勤務（工房長）
 1991年 宇和島市役所入庁 2017年早期退職 2018年 ドライフルーツ製法インストラクター資格取得 2019年 ダルメイン世界マーマレードアワード日本大会（八幡浜）アマチュア部門に出品、銀賞と銅賞を受賞 2020年 ダルメイン世界マーマレードアワード（英国）ホームメイド部門に出品銅賞2品受賞 Citrus-Line 開業 柑橘ソムリエライセンス取得 2021年 ダルメイン世界マーマレードアワード日本大会（プロの部）に出品 金賞、銀賞、銅賞3品受賞 2022年 宇和島大賞（エール賞）受賞 ダルメイン世界マーマレードアワード（英国）（職人の部）に出品 金賞、銅賞、入賞を受賞 宇和島大賞受賞

詳しくは



Citrus-Line（シトラスライン）のホームページ、フェイスブックをご確認下さい。



特集

愛媛県指定無形民俗文化財

未来につながる吉田秋まつり神幸行事



吉田町の山下公園前を進む本町1区の山車 撮影／河野 哲夫

吉田秋祭は11月3日の早朝より始まり、昼前、町内各地から集まった山車や神輿が吉田病院付近より厳かに出発し、古式ゆかしい練りが続く。

■卯之刻相撲

晩秋の早朝、まだ暗く冷たい空気が張り詰める中、八幡神社拝殿では午前5時から神事が執り行われ「卯之刻相撲」が奉納される。地域で受け継がれてきた行事1人と力士6人が紋付き袴姿の正装で東西に分かれ相撲を取るが、双方神様なので引き分けにする。取組が終わると、順に神酒を拝戴し、行司と力士は神輿蔵へ向かい、三体の神輿を拝殿前に運び出す、いわゆる蔵出しを行う。

■鹿の子

午前6時頃、遠くから「鹿の子」がデッコのリズムを打つ音が聞こえてくる。その後、7頭の鹿が八幡神社拝殿前で参拝し、いったん山門前まで戻って並びなおし、親鹿がトビコミでシカブエを鳴らしながら石段を駆け登り、他の鹿が続いて社殿前で踊る。これは祭り当日5箇所で行われない最初のハイライトである。その後、町内数十箇所の巡業に向かい御殿前で勢揃いとなる。

■神輿の宮出し

午前8時過ぎ、修祓を受けた担ぎ手が笛の合図で出発。いよいよ宮出しとなり、各所で神輿を担ぎ飛び跳ねながら、玄関先に走り込む「御霊振」を行う。御殿前に到着すると、三体同時に時計回りに三回廻りながら御霊振を行い、御殿前で山車等と合流し渡御の再開となる。



吉田町おねり保存会 副会長
御用練保存会 代表
渡邊 晃



(写真上) 卵の刻相撲 (写真中) 練車宝多 (写真下) 山車の勢揃い 撮影／河野 哲夫

■牛鬼

牛鬼は元町、鶴間、浅川の輪番制で、今年の担当は鶴間地区。宇和島地方で馴染みの深い牛鬼の胴体の覆いは赤い布で胴体を覆うところが多いが、吉田では江戸時代後期の「吉田祭礼絵巻」に描かれているように棕櫚しょうろを用いている。肅々と行われる吉田秋祭りの中で唯一荒ぶれるのが牛鬼だ。

ピッピ、ピッピと笛の音を鳴らしながら台車に乗せた牛鬼を押していく。「セーの、よい」で家に向かって牛鬼の首をのぼし、頭を左右に揺らす（頭入れ）。頭入れは、御祝儀をもらった家で行われ、御殿前を目指して練り歩く。

■御殿前「練り勢揃い」

祭りの一番の見所は、練り物が御殿前周辺に勢揃いする勢揃いだ。勢揃い後は、「練り車」と呼ばれる人形を乗せた「屋台」（武内宿禰・太閤秀吉・楠木正成・関羽雲長・恵比寿様、八幡太郎義家の他、御用練り・御船・七福神・御神餅掛鯛・宝多・四ツ太鼓・猿田彦命、等様々な練り物が登場し、前述の神輿などとともに運行され曳き回す様は、吉田祭礼絵巻を彷彿とさせる。

吉田秋祭の幕末期の形態を描いたものが複数の絵巻で現存するとともに、近世祭礼の姿が江戸時代と変わらない町割りの中、江戸時代後期から継承されていること、南予地方の祭礼に登場する練り物の要素が広範に含まれ、構成されているのが吉田秋祭の特徴である。

1664年に始まった祭礼が、なぜ今日まで継承されたのだろうか？ 明治以降の開発や戦災を免れたことで町割りがほぼ変わらなかったことが大きな理由ではあるが、それ以上に先人たちの思いを現在に至る担い手たちが町割りごとの分担で形を変えず伝承してきた姿に価値がある祭りなのではないだろうか。

吉田秋祭り——民俗文化財としての価値——

一、山・鉾・屋台行事

日本全国には1500以上の山・鉾・屋台の祭りがあると言われている。京都祇園祭の山鉾行事、飛騨高山祭の屋台行事等が知られ、2016年に国重要無形民俗文化財に指定されている33件が「山・鉾・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録された。現在、四国地方には山・鉾・屋台行事に関する国重要無形民俗文化財の指定が1件も無いものの、四国には民俗文化財として地域的特色を示したり、時代的特徴を示したりする祭りも少なくない。その代表事例が吉田秋祭りである。

二、愛媛の祭礼の地域差

一般に愛媛県は「東予」、「中予」、「南予」の3地域に区分される。「東予」を代表する西条、新居浜の祭りは全国的に有数の大規模祭礼として知られる。ただし、太鼓台は刺繍飾りなど新調されることが多く、現在、戦前からの刺繍幕や道具を使用している太鼓台は、ほとんどなく、新しさと豪華さを希求している住民意識も見られる。

その点で行事や道具を無形、有形の民俗文化財として保護する場合、保護の観点と住民意識の差異が顕在化し、新居浜太鼓祭りは市文化財にも未指定である。西条、新居浜の祭りは、装飾が著しく発

達しているが、どの地区も同様のだんじり、太鼓台を出し、地区間での装飾の競い合いが激しかったことに起因していると考えられる。この点は吉田秋祭りをはじめとする南予地方の祭礼とは異なる。

「中予」の祭りの特徴は神輿にあり、だんじり、太鼓台が登場することは稀である。この地域は独特の神輿文化を発達させており、神輿を荒々しくぶつけ合う「喧嘩神輿」が有名である。ある面、神輿が屋台化しているとも見られることもできるだろう。

そして吉田秋祭りの位置する「南予」では牛鬼、四ツ太鼓、御車（人形屋台）、鹿踊、獅子、相撲練りなど様々な芸能、練物として登場するのが特徴である。

牛鬼は全国的にもこの地域と、それに隣接する高知県西部にしか見られない。四ツ太鼓は、新居浜の太鼓台のように金糸で豪華に刺繍された飾り幕は見られないものの、構造的に新居浜の太鼓台に通している。四ツ太鼓の担ぎ方の勇壮さに加え、吉田を始めとする御車（人形屋台）の人形、彫刻、刺繍幕の豪華さも南予の特徴といえる。

三、吉田秋祭りの歴史

吉田秋祭りは宇和島市吉田町立間の八幡神社で行われる祭りである。立間は平安時代成立の「和名類聚抄」に郷名とし

て登場し、古代から集落が形成されていた。「和名類聚抄」には宇和島市域には他に「三間」の郷名は記載され、「立間」「三間」は現在の宇和島市域の中心地であった。

八幡神社の創建は鎌倉時代初期が始まりとされ、江戸時代に入ると、1657年に宇和島藩の初代藩主伊達秀宗（仙台藩の伊達政宗の長子）の五男・宗純が宇和島藩から三万石を分知されて吉田藩が立藩される。宗純は陣屋を立間ではなく、現在の吉田に置き、吉田は吉田藩の中心地として陣屋を中心に武家町、町人町などが形成されていくが、伊達家は立間の八幡神社を総鎮守して仰ぎ、八幡神社は吉田、立間に広範囲な氏子圏域が形成されることになった。

祭礼は伊達家が吉田に入った直後の1664年に始められている。このように、吉田秋祭りの歴史的背景は、古代、中世以来の立間郷の流れに加え、江戸時代の吉田藩の歴史が重なってきたことが特徴とされる。その伝統が明治時代以降も続き、近代には海運王と呼ばれた山下亀三郎による海運業や商業、漁業、そして柑橘を始めとする農業といった栄えた生業、産業のもとで祭礼は維持され、現在にまで継承されている。

四、吉田秋祭りの価値

現在、吉田秋祭りは11月3日に行われ、早朝から始まる卯の刻相撲や、楠木正成や豊臣秀吉、武内宿禰らの人形を載せた屋台（練車）とも呼ばれるを曳いて町内を練り歩く「おねり」が名物で、袴、羽織袴姿で着飾った地元住民が、本町、魚棚町、裡町などの町ごとに様々な練り物を繰り出し、終日、町内を歩き、最後、午後5時頃に八幡神社に神輿が還御する。

吉田秋祭りは近年、文化財や地域の観光資源として注目されており、2018年に「吉田秋祭の神幸行事」が愛媛県無形民俗文化財に指定された。この指定にあたっては、江戸時代から住民による氏子主体の祭礼組織が現在にまで維持されていること、江戸時代の吉田藩士らが参加した「御用練り」なども現在行われており、典型的な江戸時代の大規模祭礼ともいえる都市祭礼が維持、継承されていることが民俗文化財として評価された。さらには牛鬼や鹿踊といった南予独特の祭礼文化を伝えており、瀬戸内海地域を中心とした中・四国地方の祭礼文化を考えるうえで、特徴のある祭礼だと評価されたのである。

さて、「祭り」とは神仏に対して供え物を「たてまつる」ことが起源であり、祭祀儀礼が発展して、神社の祭りで神輿を



愛媛県歴史文化博物館
専門学芸員
おおもと たかひさ
大本 敬久

出し、種々のお供を出すことで、観客に「見せる」、「見られる」ことを意識し、そこから現在にいたる「祭礼文化」へと発達してきた。吉田秋祭りの「おねり」は、愛媛県内の典型的な事例であり、人形、彫刻、立体刺繍などで豪華に装飾することで観客（地元住民や、江戸時代でいえば藩主や武士）を喜ばせ、今日に至っている。

愛媛県内では新居浜市の太鼓台のように金糸の立体刺繍で幕を飾ったりするなど「見せる」ことを意識しながら、大型化し、祭礼が発達してきた祭りが特徴的である。これは東予に顕著に見られる傾向であるが、西条では「たんじり」、新居浜では「太鼓台」に一極集中していて、南予地方の祭礼に見られるような御車（練車）、御舟、牛鬼、鹿の子（鹿踊）などバリエーション豊かな神輿のお供が登場することは少ない。また、中予の祭りも神輿、獅子舞以外はお供が少ない。

吉田秋祭りは南予地方の祭礼文化の特徴を兼ね備えており、吉田秋祭りを実見すれば、南予の祭りの特徴を把握できるといえる。旧宇和島市や旧八幡浜市といった都市化された祭りでは、改変が進み、神輿のお供は、牛鬼、鹿踊中、心となっている祭りが多く、吉田秋祭りは愛媛の祭り文化の総合的な地域的特徴（地域性）を顕著に示すという意味で、文化財的価値があるといえる。

また、吉田秋祭りは江戸時代（1835年）製作等の祭礼絵巻が多く残され、当時の様子も把握できる。しかも絵巻に

描かれている様子と変化が少ないままに、現在に伝承されている点が愛媛県内だけではなく四国各県を眺めても珍しい事例である。つまり「歴史性」と「伝承性」の視点でも価値のある文化財といえるだろう。

吉田の歴史を考えると、江戸時代初期以前は立間が中心集落であった。そこに江戸時代初期、吉田藩伊達家が入ったことにより武家の町並みに加え、本町裏町（裡町）、魚棚町といった町人町が形

成された。その江戸時代に成立した町割り、現在もほぼ残された上で「おねり」、神輿渡御が行われていることも、他の祭礼と比較すると稀有な事例といえる。

さらに、もともとの在地の立間が、祭りの最初の宮出しにあたって「卯之刻相撲」を行い、神輿を担ぎ、そして立間内の17集落それぞれの旗を持って練り歩く。つまり吉田秋祭りの基本部分は立間の住民が担い、そして練車（人形屋台）といった豪華なお供を町人町が担う形式とな

っていて、それが今にも継承されている。以上のように、吉田秋祭りは歴史的に古代から現代までの重層性を垣間見ることができ、そして地域的には南予の祭礼文化の特徴のかなりの部分を兼ね備え、この地域を代表する祭礼であること、そして祭礼が行われる町やその組織が時代を越えて現在に継承されているという伝承性が強く見られるという特色を有しているのである。



（写真上）吉田秋祭りの牛鬼 （写真下）八幡宮御祭礼画図に描かれた本町一丁目の練車

大本 敬久 プロフィール

1971年、八幡浜市生まれ。

専門は民俗学・日本文化論。日本民俗学会、古代文学会会員。

著書に『民俗の知恵—愛媛八幡浜民俗誌』（創風社出版、2005年、愛媛出版文化賞奨励賞受賞）他。

愛媛県内各地の祭りと芸能、年中行事、昔話伝説等の伝承文化を調査研究するとともに、2018年7月豪雨で被災した歴史資料の救出保全活動や、地域の文化遺産を活かした復興に取り組む。近年は少子化の進む南予各地で地域に根ざした社会教育、生涯学習の場の創出を模索している。

立間鹿の子



立間八幡神社の拝殿前で踊る吉田鹿の子

撮影／北濱一男

みかんの里、宇和島市吉田町では、例年11月3日に江戸時代から伝わる秋祭りが開催されます。立間地区からは「鹿の子」が町内を巡ります。祭りの起源は諸説ありますが、吉田藩初代藩主伊達宗純が南山八幡神社を藩の総鎮守と定め、神社の祭礼に奉納されたのが起源（1664年）とされています。

立間地区では、地域の郷蔵地区から始まった「鹿の子」を保存するため、1963年に「立間鹿の子保存会」を設立し、立間地区住民を会員として鹿の子の保存・伝承に努めています。

鹿の子（通称）は、正式名を「鹿」と言い、その踊りは素朴で力強く、哀調をおびています。構成は、親鹿2頭、中（若）鹿2頭、雌鹿1頭、小鹿（小学生）2頭の計7頭（人）です。踊り手は地区内より選ばれた若者たちです。

親鹿の吹く笛の音につられて、胸につるした太鼓の撥さばきも鮮やかに勢ぞろいし、道行、楽しい庭見、雌鹿を奪い合う雄鹿の狂乱へと踊りは最高潮に達し、その後の和やかな雌鹿との出会いと暮らし、そして、自分たちの故郷へのお帰りとなって幕を閉じます。

鹿の子は、吉田秋祭りには欠くことのできない出し物で、神輿の行く

先を清める役目を担っています。見せ場は、親鹿が雌鹿を奪い合う「飛び込み」と言われる踊りで、八幡神社・伊達家の屋敷があった御殿前・桜橋・住吉神社の4ヶ所で披露されます。

歌は8番まであり、胸につけた太鼓にわせて歌いますが、太鼓・歌・踊りと3つの動作を同時に行うことは、なかなか大変です。

踊りの練習は1ヶ月間行います。鹿の子には交代要員はなく、一日中踊り続ける体力をつくります。祭りが終わるまで病気もケガもできません。その為、その間、踊り手に選ばれた者は体調に気を配りながら過ごします。

祭り当日は、午前6時より午後6時まで町内を練り歩き、1日70ヶ所程の家々を廻り踊りを披露します。

また、踊りの時履く草鞋を自分で手作りしています。現在、草鞋を編める人も少なく、これも伝統文化の伝承だと思い、若者たちが悪戦苦闘し2足ずつ作成し、それを履き、終日踊り歩きます。

11月3日には、ぜひ吉田町秋祭りおいで下さい。鹿の子・神輿・牛鬼・山車のお練りは、全国でもあまり例を見ないものなので、必見です。



立間鹿の子保存会 会長 赤松 宗治（あかまつ むねはる）

1958年 宇和島市吉田町立間生まれ

令和2年度より立間鹿の子保存会会長 鹿の子現役時代、親・中（若）・子鹿を経験

祭りの花形「練車」について



〔人形屋台の各部名称〕

吉田秋祭の花形「練車」^{（れんしゃ）}。宇和島市域でいまこのような山車が出る祭りは他になく、県内で見ても、南予地方に数例あるのみで、6台という規模で巡行するのは吉田のみ。吉田のユニークの一つ、練車の魅力について紹介させていただきます。

「練車」は、南予独特の呼び名です。学問的な用語としては「屋台」とされるもので、その中でも人形を乗せる「人形屋台」となります。

その構造は上下2段になっており、上段に人形を乗せて下段には三味線・太鼓・鉦といった囃子方が乗り込みます。上段には勾欄^{（こうらん）}を回し、屋根も取り付けられています。人形に光があたって見えるように、障子屋

根にする工夫が見られます。各車でサイズは異なりますが、概ね幅2m×2.2m、長さ2.6m、高さ3.5m×4.3mと、間近で見ると迫力を感じる大きさです。

神輿のように動かすものを「昇山^{（のぼりやま）}」、車輪や綱を備えて引き回すものを「曳山^{（ひきやま）}」といいます。練車については4輪曳山になります。直径40cm程度の輪切りにした堅木の車輪に摩耗を防ぐための鉄製の箍^{（はち）}をとりつけ、方向転換は屋台後部に取り付けた梶棒2本をテコの要領で押し下げ、前輪を少し浮かせて回転させます。辻々で車輪が音を立てながら勢いよく回転していく、その様は練車巡行の一つの見せ場です。

次に、練車の主役となる人形について触れていきます。陣屋町の中央にある桜橋より南側、地元では「橋下^{（はしも）}」と呼ぶ町人町だった各地区が練車を運行しています。本町一丁目^{（ほんまちひとつめ）}が関羽、裡町一丁目^{（うらまちひとつめ）}が武内宿禰^{（すくね）}、裡町二丁目^{（うらまちふたつめ）}が楠正成^{（くすのまさなり）}、魚棚一丁目^{（ういばなひとつめ）}が八幡太郎義家^{（はちまんたうろうじえ）}、魚棚二丁目^{（ういばなふたつめ）}が太閤秀吉、魚棚三丁目^{（ういばなみっつめ）}が恵比寿の人形を乗せて練り歩きます。これらは江戸時代から明治にかけて製作されたものですが（中には昭和に新調されたものあり）、当時の流行や各地区の生業にちなん

だものようです。

たとえば、楠木正成は鎌倉から南北朝時代に活躍した武将ですが、明治になって天皇家の忠臣として崇敬されるようになり、人形もそれを反映しているのだと思われます。

また、関羽は三国志の英雄として知られていますが、商売の神様としても祀られており、商人が多くいた本町の人形に採用されたものだと考えられます。

そして、恵比寿は海の神様、漁業の神様で、港が近く、たくさん魚屋が営まれていた魚棚三丁目の人形になったことは頷けます。

最後に、練車を華麗に彩る幕について紹介します。屋根軒下にまわす幕を「天水引幕^{（てんすいひきまく）}」、勾欄の下に巡らす幕を「腰水引幕^{（こすいひきまく）}」、下段を覆う幕を「胴幕^{（どうまく）}」、練車の後ろに掛ける幕を「見送幕^{（みおくまく）}」と言います。天水引は巴文などがあしらわれたシンプルなもの



練車下段の囃子方

ですが、その他の幕は各車でデザインが異なり、色糸や金糸の刺繍があしらわれた豪華で見応えのあるものばかりです。

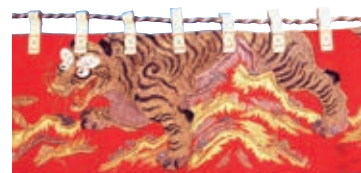
特に魚棚一丁目の腰水引幕、胴幕は豪華な仕立てとなっています。

腰水引幕には「釜」「竹林の虎」「太鼓と稲光」「鯉二匹」「笠と鉞」の刺繍がありますが、これらは「二十四孝」という中国の元の時代に書かれた親孝行の人物24人の物語からとられているものです。

胴幕には、それぞれ鳳凰、孔雀、龍が色とりどりの色糸、銀糸、金糸で刺繍され、龍の刺繍には鱗を立体的に見せるために金糸に墨を塗るといった凝った手法がとられています。

また、見送幕がみられるのは、本町一丁目と裡町一丁目だけで本町一丁目のものは「紅葉狩」という能の演目を表しています。

年に一度の無礼講の楽しみとして、吉田の町人たちが競い合うように贅を尽くし、趣向を凝らし、江戸時代から受け継いできた練車、祭礼絵巻さながらの姿をご覧いただければと思います。



魚棚1丁目の腰水引幕（虎の刺繍）



魚棚1丁目の胴幕（龍の刺繍）



宇和島市教育委員会 文化・スポーツ課 廣瀬 岳志（ひろせ たけし）

1974年 西予市生まれ 専門は考古学

【参考文献】宇和島市教育委員会編・発行『吉田秋祭の神幸行事総合調査報告書』平成30年

吉田陣屋町の歴史と「ブラ防さんぽ」の活動

■吉田陣屋町の歴史

吉田は地名の由来にもなっているように、もとは葦が群生する汐入の湿地帯で、そこに立間川水系の三つの川が集まる低地だ。そこに伊予吉田藩の陣屋町が誕生した。

町割りの造成は入部翌年から本格化し、石城山麓に周辺の山を切り崩して埋め立て、陣屋を配置した。中部は家中町、南部は町人町の陣屋町が形成されていった。

家中町は、川に囲まれた造成地、町人町は河口部の海に近いため水害のリスクが非常に高く、実際に何度も大きな災害にあっている。



毎年5月に行われる吉田の溝掃除の様子

※江戸時代の都市形態のひとつで、3万石以下の大名が藩庁を置いた建物という

吉田陣屋町の町割りは造成当初から道路ではなく水路（排水路）を張り巡らし基盤にしている。この水路は「大溝（オオミヅ）」と呼ばれ、水路の末端には調整池（汐田）があり、水門の開け閉めによって水害を防いでいた。現在も毎年5月には、住民総出の溝掃除（「ドブ掃除」や「溝サライ」と呼ばれる）が行われ、地域の強いつながりを生んでいる。

このように吉田の町は、吉田藩政時代から道路、水路、町割りを維持する集団管理が、ほとんど変わらず踏襲されている都市遺構と言える。

■ブラ防さんぽの活動

平成30（2018）年7月7日、

豪雨（以下・平成30年7月豪雨）により甚大な被害を受けた宇和島市吉田町、それまでの平穏な生活が一変した。発災当日の朝、御殿内地区にある自宅の周りは、まるで川のように泥水が勢いよく流れ、口から出るのは、「大丈夫か」「2階へ上がれ」ぐらいで、近所を気遣う余裕はなかった。昼頃になって、ようやく水が引いたが家の中はメチャクチャで言葉も出なかった。

そして、多くの人の助けで、どうか普通の生活が送れるようになった頃、地域のために何かできる事はないかと思いついたのが、防災マッ

プの制作だった。個人情報に悩まされながらも、どうにか完成させることができた。

その後も、自身の体験を通じて地域貢献できないかと思っていたところへ、令和4（2022）年に開催された「えひめ南予きずな博」で、防災減災の意識向上と記憶を受け継ぐため、未だに残る災害の爪痕を間近に見学しながら当時の体験や災害の備えについて地元ガイドから学べる、防災減災学習プログラム「ブラ防さんぽ」が行われるというのを聞き、ガイドメンバー加わった。

「ブラ防さんぽ」の活動は、「えひめ南予きずな博」が終了した現在も



吉田図書館駐車場で被災当時の様子を説明する杉田さん（右から2人目）

希望者が絶えず、活動は継続しており、（問合せは宇和島NPOセンター）引き続き吉田の町割りの素晴らしさに加え、被災体験を交えた案内をしている。

吉田には、江戸時代から現代に繋がる助け合いの絆があるが、まさに今回の災害がそうであった。この助け合いの精神があればこそ、今があると思う。

■宇和島 NPO センター

☎ 0895-49-3563

info@uwajima-npo-center.jp



武家屋敷前の江戸時代からの排水路の説明をする様子（左）山口賢司さん（左から2人目） 渡邊正三さん



ブラ防災さんぽ 杉田 和男（すぎた かずお）

1949年 吉田町生まれ 高校卒業後、愛媛県土地改良事業団連合会に入り、同会退職後の2006年より2022年まで徳洲会宇和島病院で介護職として勤務 2018年より宇和島市のボランティアガイド 2022年 南予きずな博の「ブラ防さんぽ」に参加し現在に至る



他の行事や練物

■四ツ太鼓

4人の男児が四方の張り出しに乗り、「よいいやっせ」と掛け声を発しながら太鼓を打ち鳴らす。その為、地元では四ツ太鼓のことを「よいやっせ」と呼ぶ。



■御船（おふね）

吉田藩主の御座船「八幡丸」がモデルで周囲の幕には吉田藩伊達家の家紋があしらわれる豪華な和船。



■御用練（ごようねり）

祭礼絵巻さながらに、袴や羽織袴身にまとった侍姿の人々が行列の先頭を歩く。



■七福神

恵比寿を除いた六福神の面と衣装を着た子どもたちが恵比寿を乗せた練車とともに練り歩く。



■八幡宝多（はちまんぼた）
宝多（ぼた）は大きな頭が印象的で胴体の下に脚だけが見える独特の風貌。頭を噛んでもらうと健康になると言われ、宝多の周りは多くの子どもで賑わう。



■神輿
神輿は祭神の心神天皇、比売大神（ひめおおみかみ）、神功皇后の三体が渡御し、一番神輿（松）、二番神輿（竹）、三番神輿（梅）と区別されている。



■練車（ねりぐるま）

練車の構造は屋根付き2階建て4輪の曳山だ。上段は高欄を巡らせて人形を載せる「人形屋台」で、下段に三味線、太鼓、鉦などの囃子方が乗り込む。



魚棚 2丁目／宝多



魚棚 3丁目／恵比寿



魚棚 2丁目／太閤秀吉



魚棚 1丁目／八幡太郎義家



裡町 2丁目／楠木正成



裡町 1丁目／武内宿禰



本町 1丁目／関羽



モア展

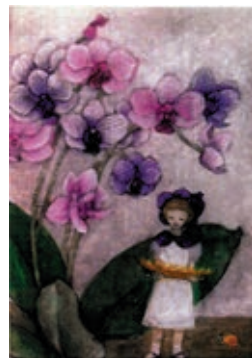
井関喜代 西川心平 濱田榮子 フジヤマ・パロン
森本秀樹 山本淳子 山本晴美



森本秀樹 旧海水浴場



西川心平 由良半島



山本淳子 蘭



濱田榮子 浮遊する景



山本晴美 何処へ



フジヤマ・パロン Passion



井関喜代 石榴

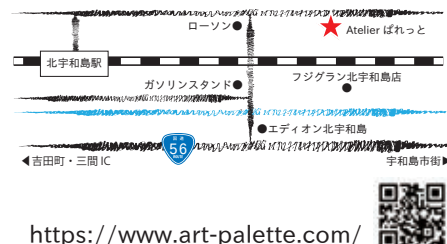
2023.11.11(土) — 11.19(日) 13(月) 休み

10:00—17:00 〈最終日 15:00〉

初日 17:00 よりオープニングパーティー&ギャラリートーク

会場 アトリエぱれっと

宇和島市伊吹町字イカリ甲 1083-1 Vista2F TEL.090-7784-4703



宇和島駅前に懐かしい昭和の匂いのするカフェ・ド・モアという喫茶店があります。昔は気取った画廊喫茶はありましたが、お店がアトリエに占領されてしまった喫茶店は他にはないでしょう。お店が暇な時、マスターは奥のテーブルで絵を描いて、気に入った絵を壁中に飾っています。この度、マスターと気の合う仲間で「モア展」を開催することとなりました。お忙しいとは存じますが、皆様ご覧頂ければ幸いです。

井関喜代・濱田榮子展 — 山と海の碧 —

2023年10月8日(日) — 31日(火) — 16:00



井関喜代 「クリスマスローズ」水彩 4F



濱田榮子 「静かな刻」OIL-PAPER 21.5×21.5cm

作家在廊日 10月8日(日)・9日(月)
11:00—16:00

スペース縁 ∞ 吉原

東京都国分寺市内藤 2-22-9
tel.042-573-0748 / 090-6954-6875

※作家在廊日以外にお越しの際は、お電話にてご予約下さいませようお願いいたします。

第2回うわしんカレンダー公募展



(上) 左からキャンパス代表の清家由佳さん、三浦澄子さん、亀井邦隆さん、清家理事長
(左上)「遊子水荷浦の段畑」(左中)「宇和島駅」(左下)「宇和島の港の風景」

○カレンダー採用作品(最優秀賞) 1点
○最終選考2点(佳作)
○人気投票、最多得票作品(優秀賞) 1点

◇佳作

作 高山 富士夫さん
「宇和島の港の風景」

◇佳作

作 亀井 邦隆さん
「宇和島駅」

◇最優秀賞 ◇優秀賞(W受賞)

三浦 澄子さん
「遊子水荷浦の段畑」

昨年、創立一〇〇周年記念事業の一環として実施したカレンダー公募展を今年も7月25〜30日の間、宇和島市内のアトリエぱれつとで開催し、令和6(2024)年版のカレンダーに採用する作品が決定しました。

さい かん ぺい
蔡 翰平

ピアノリサイタル



2023年 12月3日(日) 13:30 開場 14:00 開演
会 場：パフィオうわじま 1 階ホール

チケット：1,000 円(一般) 500 円(高校生以下)

※全席自由席 ※当日券は 500 円増 ※未就学児童の入場はできません

チケット販売所：パフィオうわじま 1 階受付 お問い合わせ：0895 - 49 - 5922

主催：宇和島市生涯学習センター / 後援：宇和島ケーブルテレビ(株)

PROGRAM

ベートーヴェン：ピアノソナタ第 27 番

リスト：コンソレーション第 3 番

リスト：『巡礼の年第 2 年イタリア』より

ペトラルカのソネット 第 104 番

リスト：『巡礼の年第 3 年』より

エステ荘の噴水

リスト：ハンガリー狂詩曲第 13 番

《休憩》

ドビュッシー：版画

塔〜グラナダの夕べ〜雨の庭

ファリャ：ドビュッシーの墓碑銘のための讃歌

ファリャ：アンダルシア幻想曲

読者プレゼント
抽選でペア券 4 組様

《応募方法》ハガキ、メールで住所、氏名、連絡先、年齢、性別、本誌へのご意見感想をご記入の上、下記までお送り下さい。

〒798-0041 愛媛県宇和島市本町追手2-8-21 宇和島信用金庫 業務推進部 広報文化室まで

メール：uwashin-gyousui@uwajima.shinkin.jp

締め切り：11月10日

桐朋学園と山下亀二郎の縁

宇和島市吉田町喜佐方出身で「吉田三傑」の一人、山下亀三郎が戦前、「船はいつか沈む。だが、人を育て心育てる教育は永遠である」との教育理念の下、創立されたのが東京都にある桐朋学園だ。同学は、世界的な音楽演奏家や各界の第一線で活躍する人を数多く輩出する名門で、平成 30 年の西日本豪雨災害の際、被災した学校のルーツともいえる吉田町を音楽で元気づけようと準備が進められていたが、新型コロナウイルス蔓延の為、中止されていたが、この度、「ご縁で繋がる ふるさと宇和島コンサート」と銘打って開催されることになったので、山下亀三郎と桐朋学園の縁についてご紹介する。

桐朋学園のあゆみ

1940 年、山下汽船株式会社社長で、教育への尊崇の念が篤かった山下亀三郎氏（宇和島市吉田町喜佐方出身）による陸海軍への寄付を基に、財団法人山水育英会が結成されました。そして、翌 1941 年、軍人の子弟子の教育を目的として、国立に山水中学校、仙川に山水高等女学校が創設されました。しかし、敗戦によって山水育英会は解散を余儀なくされ、一切を東京文理科大学・東京高等師範学校（のちの東京教育大学）に移管して、1947 年、財団法人桐朋学園が誕生しました。「桐朋」の名称は東京教育大学の校章“桐”に由来し、同校との協力の関係を意味します。務台理作学長が桐朋学園初代の理事長と校長を兼任して、桐朋中学校・高等学校と桐朋女子中学校・高等学校が発足しました。両校はそれ以後もしばらく、東京教育大学から校長を迎え教育の現場から主事を立てて、教育内容を充実させていきました。やがて、主事から出た、女子校の生江義男校長、男子校の児玉実雄校長がリードして、教育への情熱と学究の気風、自由と自治の精神を高揚させ、両校それぞれに教育の特色を創り出していきました。以来、自主と創造の校風はよく受け継がれ、校長も現場から選出されています。



山下亀三郎

女子部門は 1955 年に桐朋幼稚園・桐朋小学校を、男子部門も 1959 年に桐朋学園小学校を開設、小中高一貫の教育体制を作りました。女子部門はさらに、1964 年に桐朋学園大学短期大学部（文科・音楽科）を開設します。1966 年には、千田是也氏らによって俳優養成を目的とした演劇専攻が開設され、短大は文科と芸術科（音楽専攻・演劇専攻）という編成になりました。そして、2004 年、従来の短期大学部を改組して、桐朋学園芸術短期大学として出発しました。

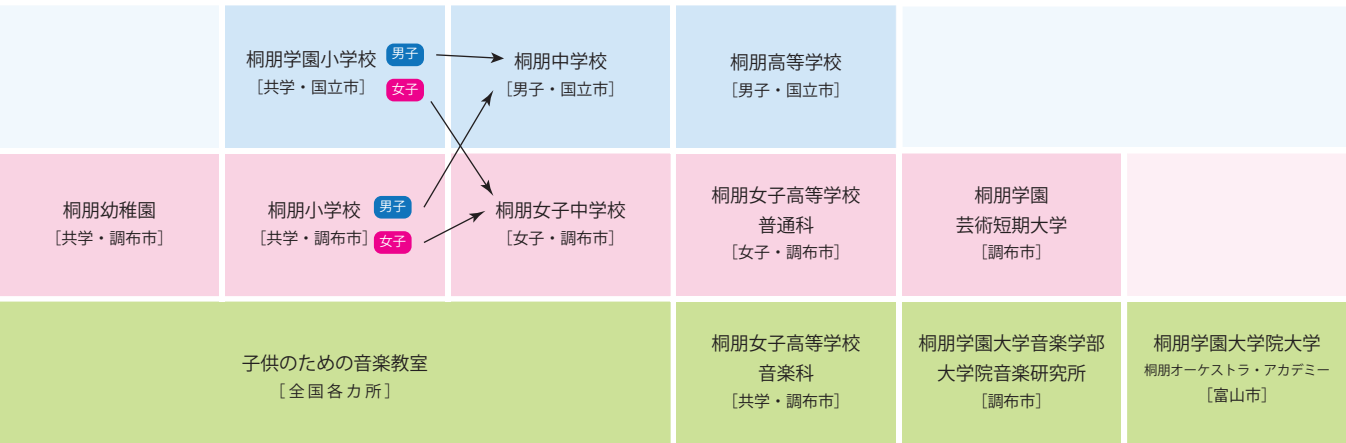
音楽部門の音楽教育は、戦後復興の希望を子供たちの無限の創造力に見出した斎藤秀雄・井口基成両氏らの「子供のための音楽教室」の開設（1948 年）に始まります。子供たちの成長に合わせて音楽教育の学校が必要になり、桐朋女子高等学校（普通科）に、1952 年、音楽科（共学）が併設されました。そして、桐朋学園短期大学音楽科を経て、1961 年、桐朋学園大学音楽学部が開設されました。その後桐朋学園の音楽教育はめざましい発展を遂げ、小澤征爾氏を初め多数の世界的な音楽家を輩出して来ました。1995 年には、富山市の誘致を受け、桐朋オーケストラ・アカデミーを、1999 年には桐朋学園大学院大学を開設し、高度の専門教育を行っています。

（桐朋学園ホームページより）

※1）実業家、財界人。宇和郡喜佐方村（現、宇和島市吉田町）出身。18 歳で上京し、明治法律学校（現、明治大学）に入るが 1 年余りで中退、日本橋の紙店で奉公の後、横浜の竹内商会石炭部に入り、明治 30（1897）年、同商会を継承して独立し、横浜石炭商会を設立した。明治 36（1903）年、英国から船を購入して海運業に進出、日露戦争の御用船徴用で海運業者としての基礎を築いた。その後、株の大暴落や北海道の木材事業の失敗など倒産の危機があったが、亀三郎は不屈の精神で乗り越え、明治 44（1911）年に山下汽船合名会社を設立し、第一次世界大戦後には世界各地に支店を置く業界トップクラスの会社に発展させて「海運王」と呼ばれた。（『愛媛人物博物館〜人物博物館展示の愛媛の偉人たち〜』より）

※2）東京都国立市 ※3）東京都調布市仙川町

桐朋学園の部門構成



山下亀三郎と山水と桐朋



清水校長 山下亀三郎

昭和17年10月 亀三郎、来校時に撮影された写真

東京の国立市と調布市に桐朋学園という学校がある。国立に小学校、中学校、高等学校があり、調布市仙川には、桐朋学園法人本部、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、芸術短期大学の音楽科、演劇科、音楽部門として、高等学校音楽科、大学、大学院がある。卒業生には、世界的な指揮者である小澤征爾をはじめ、俳優では高畑敦子など多数の著名な卒業生がいる。この桐朋学園は創立時、「山水」と名乗り、山下亀三郎（以下・亀三郎）の莫大な寄付によってつくられた。

亀三郎は、慶応3年（1867）吉田藩河内村（現愛媛県宇和島市吉田町河内）で生を受けた。明治27年（1894）、石炭業を手始めに、明治36年（1903）には海運業へ進出し、日露戦争後、山下汽船合名会社を設立し、昭和金融恐慌の荒波をくぐりながら、一代で巨大な海運会社へ成長させ財を成した。その一方、教育にも目を向け、大正6年（1917）、郷里の吉田町に山下実科女学校（現愛媛県立吉田高等学校）、三瓶町に第二山下実科女学校（現愛媛県立宇和高等学校三瓶分校）を開校させている。

昭和15年（1940）5月、亀三郎は、陸海軍に合計1千万円（今日の貨幣価値で2百億円超）もの私財を寄付し、その資金を元に財団法人山水育英会が設立された。



ふるさと宇和島コンサート
実行副委員長
そね まさひと
曾根 真人

理事長には松山出身の清水喜重陸軍中将、顧問に亀三郎がついた。ともに愛媛出身だ。設立の目的を「外地に赴く軍人と軍属が安心して外地で過ごせるよう、子弟子女の全寮制の教育機関を作ってもらうためだ。運営は陸軍と海軍の大臣に任せる。いつまでも戦争が続くわけでもない。次の世代を育てることこそ、国に尽くすということだ」と力説し、私財投資の反対意見を説得した。そして、「船はいつか沈む。しかし、人を育て心伝える教育は永遠である」という教育理念のもと、昭和16年4月、第一山水集学校（理事長・校長 清水喜重）、山水高等女学校（校長 相良達夫）が開校した。翌年の10月30日には、第一山水中学校の校舎落成祝賀式が挙行され、亀三郎は、その席上で「大地に足のつける人間を作るべし」との根本理念に続き、「軍人軍属の方々がその子弟の教育に不安があると承りました時は、真に我が事のごとく心を痛めました。何とか微力を尽くしたいと念願したわけですが、この、私のささやかな念願が今日早くも実を結び、既に東京に第一山水中学校と山水高等女学校、大阪に第二山水中学校がそれぞれ開設となり、又満州国内における計画も着々と進捗していると承ります。今日は此様に本校の落成式挙行と相成るに至りましたことは、私の歓喜措

く能^{あた}はざる所でありますと同時に胸中感慨の切なるを覚ゆるものであります」と述べている。また、11月20日の女学校落成式では「賢母を得るためには如何に女子教育が重要なかを夙に痛感したからに他ならぬやがて良き母として良き主婦として、次の世代の運命は在校生皆さんの双肩にかかっている」と祝辞している。

(※現代仮名遣い意識)

この両山水こそが、桐朋学園の初代の姿である。落成式が執り行われた10月30日と11月20日は現在、桐朋中・高等学校、桐朋女子中・高等学校両校の創立記念日になっている。

平成27年(2015)、仙川の桐朋女子新聞部が、『山水』には、4つの学校があった」と新聞の冒頭に題しているように、山水育英会により設立された学校は、第一山水中学校、山水高等女学校の他に、星輝中学校、第二山水中学校があった。

同部は夏合宿で満州国牡丹江に設立された星輝中学校の当時の生徒を名古屋に訪ね、更に大阪の同志社香里^{カウリ}中学校・高等学校を訪れ、第二山水中学校について調べ、平成28年2月発行の「山みず」において、まとめている。

平成28年11月6日には、桐朋の小学校が



※早くから

ら大学までの全同窓会が一堂に会したA.L.(オール)桐朋同窓会が開催された。初めての試みであったが約1200人もの同窓生が集まった。その際、亀三郎の孫にあたる山下眞一郎氏、山下洋二郎氏、山下英郎氏にもご臨席いただいた。

幾つもの学校をつくった亀三郎は、奥様の亀さんとともに東京の多摩霊園の一角に静かに眠っている。

最後に、今回、「ご縁で繋がるふるさと宇和島コンサート」が実現するまでの経緯を記す。平成30年(2018)7月、西日本豪雨が発生し、亀三郎のふるさと宇和島市吉田町は多くの犠牲者を出した。令和2年秋、その復興を願うとともに地元の子供たちの教育の一助とすべく音楽部門によるコンサート開催を企画準備したが、新型コロナウイルスの影響により断念せざるをえなくなった。しかし、今年、新型コロナウイルスもやや下火になる中で、宇和島市の協力のもと「ご縁で繋がるふるさと宇和島コンサート」として開催できる運びになった。

開催にあたり、全面協力いただいた宇和島市、同教育委員会、東洋建設をはじめ、多数の企業や団体及び関係者の方々に改めて熱く御礼申し上げます。



(写真右上) 第一山水中学校 第1期卒業生記念写真

(写真右下) 桐朋学園大学音楽学部には2棟の隈研吾設計の建物がある。手前の宗次ホールはCoCo壱番屋創業者の宗次徳二氏の寄付により建設された

(写真左上) 1942年 校舎落成時の記念写真におさまる山水高等女学校の生徒

(写真左下) 第一山水中学校の石刻を2019年に移設保存(当時は右から「校學中水山一第」と設置されていた)



写真提供/隈研吾建築都市設計事務所

曾根 真人 プロフィール

1960年 東京都生まれ

桐朋学園同窓会副会長 税理士 曾根会計事務所

【参考文献】
「桐朋中・高等学校五十年史・年表」「山水三校落成式紀要」(山水育英会)
「山みず」(桐朋女子中・高等学校新聞部2016年2月発行)
「海運王 山下亀三郎」(青山淳平著・光人社刊)
「つなぐ2018年夏号」(宇和島信用金庫)

ご縁で繋がる ふるさと宇和島コンサート

ふるさと宇和島クインテット 徳永二男+桐朋弦楽合奏団
尾海あかり、垣生悠比子(ピアノ)

世界的なクラシック音楽演奏家を数多く輩出する名門、桐朋学園のルーツは宇和島にあります。
桐朋学園の前身である山水高等女学校、第一山水中学校は、宇和島市吉田町出身の山下汽船創業者、
山下亀三郎の「船はいつか沈む。だが、人を育て心を育てる教育は永遠である。」との
教育理念の下、創立されました。

80年の時を超え、桐朋学園出身の演奏家が、
ここ「ふるさと宇和島」に感謝を込めて、皆様をクラシックコンサートにご招待いたします。

イベール／木管五重奏曲「3つの小品」

ホルスト／組曲「惑星」より木星 (木管五重奏版)

J.S.バッハ／
チェロ組曲第1番よりプレリュード

サン＝サーンス／白鳥

サラサーテ／ツイゴイネルワイゼン

チャイコフスキー／
弦楽のためのセレナード

【木管五重奏】

奥野由紀子(Fl)、荒井豪(Ob)、山内利紗(Cl)、河野陽子(Hr)、大森俊輔(Fg)

【弦楽合奏】

徳永二男、佐份利恭子、直江智沙子、小川恭子、石川未央、米岡結姫(Vl)

横溝耕一、山本周(Vla)、山崎伸子、塩田香織(Vc)、本間達朗(Cb)

大和田悠太(司会)

2023年(令和5年)

(開場13:15)
10/7(土) 14:00開演
南予文化会館 大ホール

入場無料 9月5日から整理券を配布いたします。

配布場所 ●宇和島市役所7階文化・スポーツ課
●各支所教育係
●パフィオうわじま1階生涯学習センター
●南予文化会館

©ヒダキトモコ

主催:学校法人桐朋学園/ ALL桐朋同窓会/ ご縁で繋がるふるさと宇和島コンサート実行委員会

共催:宇和島市教育委員会、後援:宇和島市 山下亀三郎子孫の会 協力:桐朋学園音楽部門 東洋建設株式会社

お問合せ:宇和島市教育委員会 文化・スポーツ課 文化係 TEL:0895-49-7033 798-8601 愛媛県宇和島市曙町1番地

いのちのはなし グーチョキパー 5



「つながってる！」 文 / 毛利弘子

誰もが「生まれておいで！」と、願われて誕生したいのち。「生まれてきてくれて、ありがとっ！」と、たくさんの人達に笑顔で迎えられた私達。

その「私のたった一つの命」は、ずっとずっと、もっと、ずっと続いて今があるって、ふと思いついたり、考えたりしたことがあるかな？ ひとつの命は一つの命から生まれたのではなく、二つの命から生まれた。この二つも二つずつの命から生まれたから4人、そして8人・16人・32人・その上にも・・・。

だんだんと数え切れないくらいの人々の命がつながって、今の私の命があるんだよ。ご先祖様という、たくさんの方々がつないで下さった命なのだ。この内の一人でも欠けていたら、私はここにいないかも？ どんな時代も必死で生きぬいてきた、たくさんのお母さん達がいいたことを忘れてはいけない。そうだよ、みんなの命はこんなにもすごいつながりや価値がある。

このことは、私の周りにいるみんなも、世界中の人達も同じなんだ。みんなもたくさん、たくさんの人とつながって、今がある。ひょっとしたら、知らない誰かと、世界のどこかでつながっている親戚かもだよ。そう考えると、楽しいね、周りにいる人と仲良くしなくては、命を奪い合う戦争なんて絶対、絶対ダメだよ！ と思うよね。

子どもたちとの学びの中で、「自分の命は自分だけのものではなく、たくさんの方々がつながってきてもらった命」であることを伝えてきた。辛いときや行き詰まったときは、たくさんの方々の先祖様達が応援団になっているから、きっと大丈夫だと言ってきた。私自身が、そう信じているのだ。この事実はきっと、「無限」という可能性を秘めている命の持ち主である子ども達へ、光り輝いている未来を信じて、前へ前へと進んで行く力になるはずであると思っている。

私達の身体は、細部にわたり何一つ「生きていく」上で、役に立たない部位はない。例えば、まゆ毛だって、まつげだってなかったら困る。手指の先の爪だってなかったら物が掴みにくい。つい忘れがちな足の小指だって、階段を上ったり降りたりする時に大いに役立ってくれている。強いて言えば、身体の真ん中にある「おへそ」かな？ 生まれてしまえば、これと言った働きはない部位である。でも、誰もが母親のお腹の中にいたという証である。時々、触れてみてお母さんを通して、いのちがつながってきたことを感じてほしい。きつときつと、ホットして安心して、元気が湧いて来るはずである。「一人じゃないぞ！」と叫びたくなることまちがいなしである。



もうりひろこ (著) みずせき ゆりえ (絵)
価格 1,572 円 (税込)



毛利 弘子プロフィール

1952 年生まれ 公立小中学校養護教諭を 40 年経験後 2012 年定年退職
ライフワークの性教育の講演や全国大会での研究発表多数

- 受 章 / 平成 24 年愛媛県学校保健功労賞 令和 3 年文部科学大臣学校保健功労賞
- 執筆 / 「いのちのはなしグーチョキパー」(エイデル研究所出版)
- その他 / ・和霊公民館運営審議委員・更生保護女性会副会長
・退職公務員連盟中央分会副会長・和霊小学校読み聞かせボランティア
・カサヨハネ (知的障害児) 放課後デイサービス非常勤講師ほか
- 趣味 / 陶芸・登山・写真・絵手紙・歩き遍路・シーボーンアート



文ちゃんとどつぽの
予土線のあの人に会いたい5

宇和島市立図書館 主任

とみ た みつ ひさ
富田満久さん



最寄駅は「近永駅」

文／山下文子
写真／坪内政美



「毎日、アトラクションに乗ってみたいで楽しいですよ」と、ウキウキした口調で話すのは、富田満久さん（61歳）。鬼北町在住で、宇和島駅のそばにある宇和島市立中央図書館（パフィオうわじま）に勤務している。聞けば、定年退職を機に、宇和島市から鬼北町に移住し、通勤手段は予土線なんだとか。

「鉄道のない津島町出身なんですけど、以前から川の近くに住みたいと思っていて、近永に引越しました。朝、近永駅から宇和島駅まで予土線に乗るんですけど、学生たちが沢山乗っていて、皆、下向いて勉強してるんですよ。車窓にあんなに素敵な風景が広がってるのに、もったいないなと思います。たった3年間なんだから、車窓の景色を見てほしい、予土線を楽しんでほしいと思うんです」

富田さんは、季節や時間によって車窓の景色が違っているのが予土線のいいところだと言います。予土線は、「田んぼの中を泳ぐように走る」と表現するように、予土線の沿線は、季節の移ろいと共に、水田から青田へ、そして稲穂が実り、一面を金色に染めていく……。

「冬の雪景色も最高でしたね。そして春、務田の坂あたりの桜が満開の時期には桜のトンネルを列車がくぐっていくんです」

藪を越え、力強く走る1両のワンマン列車が坂道では、うなりを上げ、直線では座席から尻が浮くほど速度を上げる。まさに、予土線はアトラクションだ。



富田さんが描いた「半家駅」の絵

高校時代美術部だったという富田さん。最近、50年ぶりに絵筆をとったという。

「予土線の駅を全部巡ってみたんです。わびさびと言った、そんな情緒を感じたんですね。どこか懐かしさを感じる構図と
いうか。駅にすごく惹かれましたね」

富田さんの絵を見たとき、私は、ハツとした。普段見慣れているはずの駅なのに、まるで映画のワンシーンを切り取ったかのような水彩画は、竹ペンとパステルを使って優しい筆遣いで風景が描かれていた。予土線の駅の一枚一枚を眺めながら、こんなにもドラマチックな場所だったのかと息をのんだ。無人駅なのに、どこか温かみのある、ささやかな人々の暮らしや営みを感じるのだ。

たとえば、半家駅を描いた作品は、長



い階段を上った先にある小さな駅だが、オート三輪や軽トラがちよこんと描かれている。
「実際の景色とはちよつと違つんですよ。見たままというよりは、心に残るという感じでしょうか。小学生のときに習ったあの竹ペンのかすれ具合とか風合いが好きなんです」

予土線の風景が富田さんの日常の風景になっている。夕方の帰宅時に見る大内駅の夕景。踏切から見える近永駅のホームと大きなイブキの木。木造の土佐大正駅には、路線バスと赤い郵便ポストがレトロな雰囲気を出している。バイクでツーリングをしたときに、ふと見上げた十川駅には黄色い「しまんトロッコ」。

田んぼの傍の家地川駅には、おもちゃのような鉄道ホビートレインが停車している。

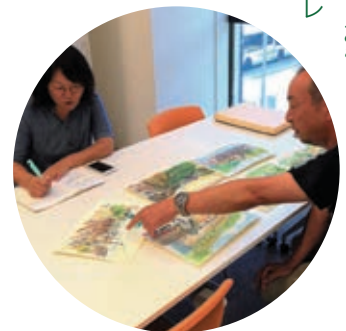
降りる機会など、ほとんどなかった小さな駅が愛おしくなる。現在6駅を描き上げていて、月2回の絵画教室で4時間かけて1枚を完成させるという。

「仕事帰りの一杯ついでにのんびりしてたんです。宇和島から列車に乗る前でもいいんですけど、近永駅に着いてから列車を降りて自宅までにある小さな店で飲むっていうのが、お気に入りです。なんか、それがすごく良いんです」

乗って、描いて。すっかり暮らしの一部となっている予土線を富田さんは120パーセント楽しんでいる。いつか予土線20駅の絵を描き上げたら、ぜひ展示会をしてほしいと思う。



ツーリングも予土線巡りも愛車（BMW F750GS）と一緒にです。



山下 文子（やました あやこ）

宇和島市出身、鬼北町育ち。予土線沿線は県をまたぐも「ザ・生活圏」。鉄道を始め、乗り物は何でも大好き。座右の銘は「その角を曲がれば、旅」（※永六輔氏のうけうり）。「四万十の鉄道 予土線」のホームページでコラムを担当。



坪内 政美（つぼうち まさみ）

スーツ姿で撮影するという奇妙なこだわりをもつ鉄道カメラマン・ロケコーディネーター。各種鉄道雑誌などを執筆する傍ら、テレビ・ラジオにも多数出演。町おこし列車「どつぽ列車」を主宰し、駅スタンプを製作・寄贈する活動を行っている。高知県予土線利用促進対策協議会アドバイザー。

四万十川の
鉄道よどせん



協力：高知県予土線利用促進対策協議会

曾根の天神花踊

(宇和島市三間町)



撮影／北濱一男

曾根の天神花踊は月遅れの八朔にあたる9月1日に宇和島市三間町曾根の天満神社で行われる太刀踊で、高知県と南予地方に伝わる独特の民俗芸能である。

起源伝承は、戦国時代に土佐の長宗我部元親が現在の南予を侵攻し、三間盆地もほぼ手中に収めたが、三間北部の齒長城を攻め抜くことができなかった。元親は家来に命じて、毎夜、土佐名物の太刀踊を踊らせた。それを見た地元の農民たちは恐ろしくて近づけなかったが、次第に見物する者が増え、共に踊り楽しむようになった。そして曾根の天満神社にて、伊予と土佐の農民が合同で踊ることとなり、齒長城主も近習を連れて見物していた。そこで元親は号令を出して齒長城主を捕らえ殺してしまい、齒長城も落城したという伝説がある。その後、非業の死を遂げた齒長城主の霊を慰めるために、9月1日に踊りを催したという。踊りの構成は、口説きが数名、大太鼓1名、締太鼓1名、踊り手が太刀5名、小太刀4名、鎌20名ほどで、青年と少年が踊っていた。近年の踊り手は成年男子5名、高校生2名、中学生2名、小学2年生から6年生が5名の合計14名であり、口説きは年配の者がつとめることになっている。演目は14種類あるが、太刀を長柄にして、これに白紙の「シデ」を付け、舞台の周囲に張られた注連縄を切ったりする。

愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員

大本敬久



1971年、八幡浜市生まれ
専門は民俗学・日本文化論著書に『民俗の知恵』（創風社出版）等

演目は、太刀踊りの部、鎌踊りの部にわかれ、太刀踊りの部には①さきだち、②さしあい、③くるま、④もんじり、⑤きりあげ、⑥わきばさみ、⑦みつしきがある。鎌踊りの部は⑧さしあい、⑨くるま、⑩もんじり、⑪わりかま、⑫とりおい、⑬さしあいがあり、最後に「ひき」があって全部で14演目となる。

最後に大太刀をまとめて神職に渡して拝殿に持って行き、閉式の神事を行い、終了となる。また、鎌を用いた踊りは、戦国時代の長宗我部軍の太刀に対抗し、地元の農民が鎌を持って共に踊ったことに由来するともいわれる。

この踊りは太刀・鎌といった採物だけではなく歌詞も興味深い。「ここあけよやま通りきぞや開けずば、登り跳ね越えはね越えて此方寄り添え、そえやつまびき着しようや絹の褌、着もそめぬ絹の褌より着そめた麻の褌、はなとりは七日垢離しよう、おとしきれなせんごせ、せんごせはどのせんごせ、みしょうのみどりのせんごせ」などもあり、高知・南予各地の歌詞とも類似し、室町時代風の内容も含まれている。南予の郷土芸能である鹿踊りや獅子舞よりも古い時期から継承されていた可能性があり、現在、愛媛県無形民俗文化財に指定されている。

撮り歩きなんよ

北濱一男が撮りためた南予の風景



宇和島市街の灯りに活力を感じる

いずみ が もり

泉ヶ森からの夜景

宇和島市内から北東方向に見える、てっぺんにアンテナが建ってる山が泉ヶ森標高（755m）です。宇和島市と鬼北町との境にある山で宇和島の市街地の住民にとっては「アンテナの山」として知られています。また、三間町側から眺めると、なだらかに裾を左右に広げている山容が富士山のように観えることから、三間の人たちからは「三間富士」と呼ばれて親しまれています。

山頂にはテレビ等の中継基地があって、各局のアンテナが林立していて、それらの保守点検をする必要性から、山頂までの道路が整備されています。

宇和島側には格好の斜面があり、昔はここからパラグライダーが飛び立っていました。眼下に宇和島市街と宇和海が広がり、好天時には遠く九州も見えます。



遠くに大分の街灯りと由布岳が見える



北濱 一男 写真家

1945年生まれ 宇和島市在住 学生時代からカメラをはじめ、本格的な写真歴は約20数年 奈良県明日香の写真家 上山 好庸氏に師事

「撮り歩きなんよ」（ブログ）<http://uwatu.blog135.fc2.com/>



感新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の対応

感染症は「感染症法」において、症状の

重さや病原体の感染力などから、1〜5類等に分類されており、それにより感染拡大を防止するために行政が行う対策を定めています。新型コロナウイルス感染症は、これまで「新型コロナウイルス等感染症（いわゆる2類相当）」とされていましたが、令和5年5月から「5類感染症」に移行しました。これは季節性インフルエンザと同じ扱いです。

5月からの主な変更点は、3つあります。

新型コロナウイルス感染者の

外出等の制限がなくなること

これまでは新型コロナウイルス等対策特別措置法（特措法）により、入院の勧告・措置、行動制限、就業制限などの強い措置が取られてきました。5類移行後は、感染者の法律に基づく外出自粛は求められませんが、外出を控えるかどうかは、個人の判断に委ねられます。濃厚接触者の外出自粛も求められなくなりました。

マスクの着用は個人の判断に委ねることを基本となりました。引き続き感染拡大防

止のため、医療機関受診、高齢者施設訪問、

混雑した公共交通機関利用時などはマスクの着用を推奨されます。高齢者、基礎疾患のある方、妊婦の方など、重症化リスクの高い方が感染拡大時に混雑した場所に行く時もマスクの着用が推奨されます。

すべての感染者の

登録や健康観察などがなくなること

今までは指定感染症として全例の報告が義務付けられていましたが、移行後は指定医療機関での定点報告となりました。これにより現場の負担はかなり減りましたが、感染状況の全体像が見えにくくなり、以前のデータの比較ができなくなりました。テレビなどでの感染者数の報道もなくなりましたが、医療現場では感染者が減った感じはなくクラスターの発生も続いています。

治療費に一部自己負担が生じること

健康保険が適用され1割から3割は自己負担が基本となります。無料検査も終了しました。しかし、一定期間は公費支援を継続すること、ワクチン接種は来年度まで無料の予定です。

新型コロナウイルス感染症の扱いが変わ

った背景には、自粛による社会生活への負担や経済への影響が限界にきていたこと、新型コロナウイルス感染症の病原性が低下したことがあります。初期には高齢者が感染すると重症化は10%、致死率は8%もありました。ワクチン接種が進むことにより悪化する割合は減り、現在は季節性インフルエンザと同等程度となっています。

秋から7回目のワクチン接種が行われます。ワクチンにより作られた抗体はウイルスが体内に侵入すると攻撃を開始し、排除するように働きます。それにより感染の拡大や病状悪化を防げます。しかし、ワクチンの予防効果は時間と共に低下します。

また、新たな変異株はワクチンによる防御をすり抜けやすくなっています。新しいワクチンに変種株に対応しています。ワクチン接種は来年度からは有料となる予定です。重症化リスクの高い方は積極的に接種を受けて下さい。



沖内科クリニック
副院長 沖 良隆

宇和島市内から愛南町に向けて20分ほど車を走らせたあたり、

津島町の浦知という集落に、小学校廃校を活用したレストランカフェ「あすも」があります。二階の食事スペースの窓から見渡す宇和海の景色がとても美しく、おいしいランチを味わいながら、癒しのひとときを過ごすことができます。

今回は、この「企業組合津島あぐり工房あすも」についてご紹介します。



「あすも」は、レストランのほか、味噌、惣菜、菓子、米粉パンなどの製造販売もされています。その商品の特徴としては、どれも地産地消や郷土の食文化にちなんだものとなっていることです。

「昔ながらの手作りの家庭の味を、できるだけ今の子どもたちにも伝えていきたい」と代表である山下由美さんは語られます。そのため、レストランメニューは、すべて手間暇かけた「手づくり」にこだわられています。

地域の高齢化が進み買い物弱者が増えたときには移動販売を開始し、西日本豪雨災害の際は被災者に向けて無償でお弁当を配り、高校の相模部学生にはその日の残り物を差し入れてエールを届け、「あすも」は地域の食の課題に即した活動を常に展開されています。現在の浦知では、地域住民の孤食を防ぎコミュニティを育む「ふれあいモーニング」を催すなど、地域を元気にするために奮闘されています。家族を見守る『母』のように。



■ランチ（金、土、日曜日） 11時～14時

■ふれあいモーニング（毎月第4日曜日）9時～12時

宇和島市津島町浦知 380 番地 ☎0895-49-1317



野菜の南蛮漬

（材 料）1人分

かぼちゃ	・・・	100g	しょうゆ	・・・	小さじ1
ナス	・・・	60g	砂糖	・・・	小さじ2
ツナ缶	・・・	大さじ1	酢	・・・	大さじ1
大葉	・・・	適宜			
みょうが	・・・	適宜			



前田料理長



山下代表

あすもの前田料理長さんから教えていただいた「野菜たっぷり」レシピです。
ぜひお試しください！

（作り方）

- ①かぼちゃは半分に切り、種とわたをスプーンで取除き、1cm厚さに切る。ナスは縦半分に切り、2cm厚さの斜め切りにする。
- ②かぼちゃとナスを、柔らかくなるまで蒸す。（強火で10分程度）
- ③調味料を合わせ、②で蒸した野菜を漬け込む。
- ④器に③を盛り付け、大葉とみょうがのせん切りと、ツナ缶をのせる。



和田 広美

管理栄養士
柑橘ソムリエ
シーフードマイスター
愛媛大学地域再生マネージャー

お気楽 俳句

昨年「第六十八回角川俳句賞」を受賞したのは西生ゆかりさん（関東在住・30代）。受賞作五十句には、日常生活のなかから拾い上げた素材がいっぱい。俳句は花鳥風月を詠むもの”と力まなくても、その人ならではの視点や描写力によって何気ないことも秀句になるという好例です。

受賞作「胡瓜サンド」より抜粋してご紹介。ああ、そうそう！と楽しんでください。（小野更紗）

自転車を追ひ抜く犬や春の川

永き日や買はぬベッドに身を広げ

ジャージ着て近所を生きて昭和の日

診てもらひに行く真面目なTシャツで

バナナの皮バナナの如く反りゐたる

名を忘れ香水の名を忘れざる

内側のやうな外側捕虫網

百円で買へる光や夏祭

きゅうり
胡瓜サンド人は飛べないから走る

白シャツと顔の間の喉仏



絵：律川エレキ
1966年宇和島市生まれ
奈良市在住
2000年頃より俳句新聞
や俳句マガジン等に挿
絵を描く。映像作家

*あらいやけ：食事のあとの食器洗い

人に戻りて節分の豆拾ふ

*色文字が季語です

湯ざめして木馬のやうな声を出す

身長順に泣き止む文化の日

秋雨や鎖骨に歪むネックレス

秋の雲なでられて猫うらがへる

いちぢく
無花果や手首の通る鉄格子

おすすめの本

黄色い家

川上未映子 著 中央公論社 刊 ¥2,090（税込）

読売新聞連載小説（2021年7月～2022年10月）で今年2月に発売された話題作。「人はなぜ金に狂い罪を犯すのか」というテーマを劣悪な環境に育ち孤独な17歳の少女「伊藤花」が変貌していく様子を「花」自身の語りで描いている。

自分の居場所や大切な人（黄色い家）を守るために闘っていたはずなのに、金そのものが人を支配し始める。その怖さと哀しさに身震いした。

川上さんは各国で翻訳されている作品も多い。世界中で貧困や格差社会の広がりが伝えられる今、居場所を求めて闘っている子どもたちはどれほど多いのだろうか。



協力：岩崎書店 宇和島市錦町4-16 TEL. 0895-22-0528



■アトリエ堀端絵画教室（べにばら画廊） <https://benibara.webhop.info/>

宇和島市本町追手 2-8-6 TEL. 0895-22-1104 コメント：吉田 淳治



作品名：『古い靴』（色鉛筆）
作者：山瀬布貴（大人クラス）

人の歩みを支えてきた古靴の実在感。
モノとしての確かさがここにある。
過去にどんな道を辿って来たのか。
布貴さんは見続け、描き、蘇らせた。
靴音に一本一本の線を呼応させて。



作品名：『夏の空』（水彩）
作者：刈谷寿（子どもクラス）

四万十市から教室に通う途中でのこと。
窓から見えた夏の雲がきれいだったと。
日常の中にある心動かされるもの。それは
ことぼちゃんの清々しい目があったこそ。
さあ、次は何が見つかるだろうね。



作品名：『空へ』（アクリル）
作者：藤井瑠海（子どもクラス）

「上を向いて堂々とあるものを描いた」
「私もイキイキこんなふうになりたい」
とは、るかちゃんからのメッセージ。
デッサン練習用の石こうが絵に美変身。
初のアクリル絵具、あざやかな色対比。



■アトリエぱれっと <https://art-palette.wixsite.com/mysite>

宇和島市伊吹町字イカリ石甲 1083-1 2F TEL.090-7784-4703 yuka@art-palette.com コメント：清家由佳



作品名：『夏みかん』（アクリル）
作者：二宮優子

夏みかんの瑞々しさと木漏れ日の感じが、とても伝わってきます。
いつも熱心に制作に取り組む、繊細かつ
爽やかなタッチは二宮さんだから表現
できる技だと思います。これからも素
敵な作品を沢山描いて下さい。



作品名：『駅のベンチで』（油絵）
作者：赤松富貴子

お孫さんへの愛情溢れる作品です。
ニット帽や顔にあたる反射光など、と
てもよく表現できています。制作中の
赤松さんは決して妥協することなく
粘り強く追求していく姿勢に脱帽です！
素晴らしい！



作品名：『太陽がいっぱい』
(アクリル、金属、木)

作者：三好啓司
なんと素材は草刈り機の刃。そこに注
目したのは流石です。草刈り機の刃に
ひまわりの絵を描き、オブジェを造る。
素晴らしいです。三好さんは、あらゆ
る表現で制作されます。次は何なのか、
いつもワクワクします。

有限会社 浅野石油店 取締役 浅野太洋

「引き継ぐ、地域密着型事業」

弊社は燃料販売業（ガソリンスタンド）である有限会社浅野石油店として昭和40（1965）年に祖父が旧広

見町（鬼北町）に創業しました。

現在は2代目である父が経営を引き継ぎ、燃料販売だけでなく、LPガス及び燃焼器具販売、不動産業、太陽光発電事業と事業を拡大しています。私も3代目となるように日々経営の勉強し、仕事に励んでいます。

私は、子どもの頃から家業を引き継ぎたいという思いがありましたが、本格的に引き継ぐために必要な行動に出たのは高校生になった時です。進学した際に今のままでは引き継ぐことに不安を感じ、大学で経営を学ぶべく経営学科に進学することを決めました。大学卒業後は違う地域で5年間働き、修行する予定でしたが従業員が1人辞めることとなり、決まっていた就職先に就職せずに地元の鬼北町に戻ることにしました。

現在は、主にガソリンスタンドで自動車の燃料の給油、タイヤ・オイルの販売及び交換、洗車等の業務を行っております。地元のガソリンスタンドであることから地域密着



型の経営をしており、お祭りやボランティア活動等にも参加し、地域との交流を大切にしています。

燃料販売業界でも人口減少、若者の自動車離れ、自動車の燃費の向上、カーボンニュートラル等の問題や政策、技術の進歩により業界全体が厳しくなっています。特にカーボンニュートラルでは燃料転換の動きがあり、電気自動車等の化石燃料を使用しない自動車が出ていることから今後とも厳しくなっていくのではないかと予想されます。時代の変化や市場の動きに注目して、様々な需要に答えられるように準備をしていかなければなりません。

弊社としても時代の変化や市場の需要だけではなく、地元である鬼北町のお客様の需要や要望を取り入れて柔軟に対応することができるよう日々努力していきたいと思っています。

最後に、時代の変化と共にガソリ

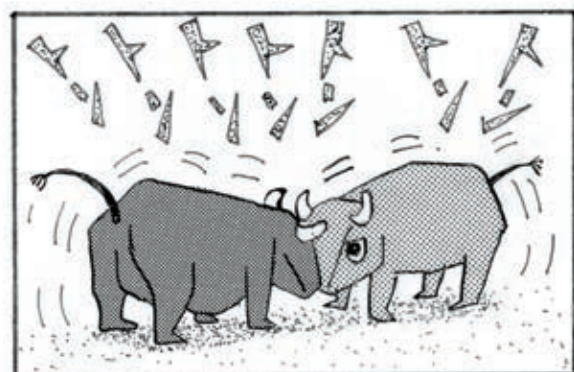
ンスタンドが無くなる可能性が大きく非常に厳しい状況であり、私の代ではガソリンスタンドがどのような形で残るかはわかりません。しかし、どのような形で残ったとしても祖父の代から続けてきた地域密着型の経営を引き継ぎ、浅野石油店を発展させると共に生まれ育った鬼北町に貢献していきたいと思っています。



有限会社 浅野石油店 北宇和郡鬼北町近永 630 TEL 0895-45-0171

うわしん「南予活性化若手経営塾」とは、宇和島信用金庫において1年間、南予地域の産業活性化をはかるために創業者や2代目、3代目の若手経営者を育成し、企業経営体質の健全化・成長のためのセミナー・個別指導・異業種交流等をおこなっていて、地域内の中小企業の経営レベルを向上させる目的で開講されています。





本名 / 城内 章 1957 年 宇和島生まれ 愛知県在住
宇和島南高等学校卒 職業 / 建設業
趣味 / 漫画イラスト作成
著書に「のらとおばあちゃんの虹」

Tosyu Hyappen
斗酒百篇



株式会社 佐浦 宮城県塩竈市本町 2-19

秋とともに深まる味わい。

は し
土師 酒店

※斗酒百篇（としゅひゃっぺん）とは たくさんの酒を飲みながら、たくさんの詩を作ること。 古代中国の唐の時代、数多くの詩を作った李白のことを杜甫が『飲中八仙歌』の中で褒め称えた言葉。 題字／矢間大蔵



うわしん WEB完結ローン 取扱いスタート！



うわしん



<https://www.shinkin.co.jp/uwajima/>



WEB完結OK カーライフプラン

通常金利 年3.4%
特別金利 年2.9%
(固定金利/保証料込み)

- ご融資期間/3ヵ月以上10年以内(元金返済据置期間は6ヵ月)
- ご融資金額/1,000万円以内(1万円単位)
- お使いみち/新車購入、中古車購入、バイク購入、電動アシスト自転車購入、パーツ・オプションの購入・取付、免許取得、車検・修理、自動車保険、車庫設置、自動車購入資金の借換(申込本人が借入したローンに限る)
- 保証料/金利に含まれます。

WEB完結OK 教育プラン

通常金利 年2.6%
特別金利 年2.1%
(固定金利/保証料込み)

- ご融資期間/3ヵ月以上16年以内(元金返済据置は卒業予定月まで)
- ご融資金額/1,000万円以内(1万円単位)
- お使いみち/申込人または申込人の子弟、扶養親族が学校(教育施設)に入学または在学するために必要な資金 ●幼稚園から大学、大学院、(法科大学院含む)、専門学校、各種学校、予備校などの学校納付金(入学金・授業料など)最長1年分 ●教材費、下宿費用、引越費用、受験費用、交通費等の1年分の付帯費用(100万円以内) ●留学費用 ●教育関連資金の借換資金
- 保証料/金利に含まれます。

WEB完結OK フリーローン

ご融資利率 年4.00% ~ 年10.00%
(固定金利/保証料込み)

- ご融資期間/3ヵ月以上10年以内
- ご融資金額/500万円以内(1万円単位)
- お使いみち/自由(事業性資金・おまとめ資金も可)
- 保証料/金利に含まれます。
- ご融資利率/4.0%、7.5%、10.0%(保証料込み)
- ※保証審査によりご融資利率が決定します。

WEB完結OK カードローン

ご融資利率 年16.50%
※ただし、貸越極度額100万円または、当金庫の借入残高が100万円以上の方は年14.6%(保証料含む)

- ご契約期間/2年(自動更新)
※満70歳以上の方は更新できません。
- 貸越極度額/50万円、100万円
- お使いみち/自由
- 保証料/金利に含まれます。

リピート優遇 カーライフプラン…… ▲0.2% 教育プラン…… ▲0.1%

特別金利
キャンペーン
金利引き下げ幅
年▲0.5%
下記の項目で2項目以上該当する方
①当金庫の住宅ローンをご利用されている方
②公共料金の口座振替を当金庫で行っている方、または変更された方(同居家族の方のご利用も対象)
③年金受取を当金庫で行っている方、または変更された方(同居家族の方も対象)
④給与振込を当金庫でご利用になっている方、または変更された方(申込みご本人様に限る)
⑤カードローンを同時にお申し込みの方、すでに契約済みの方
⑥四国VISAカードを同時にお申込みの方、すでに契約済みの方

- 実際にお借入いただく日の金利が適用となり、お申込時の金利と異なる場合があります。
- 「一社」しんきん保証基金が保証しますので担保・保証人は不要です。
- 審査の結果、ご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

- 金利・返済額の変化などにより内容を変更・中止させていただく場合がございます。
- 毎月のご返済額等につきましては、本支店窓口で試算いたしますので、お気軽にお問合せください。
- 詳しくは、本支店窓口までお問合せください。なお、窓口には商品概要説明書をご用意しております。

「つなぐ」は、こちらでどうぞ。

●宇和島市(本庁、津島支所、吉田支所、三間支所、中央図書館、吉田図書館、中央図書館津島分館、生涯学習センター、パフィオうわじま、市立宇和島病院、伊達博物館、畦地梅太郎記念美術館、歴史資料館) ●きさいや広場 ●道の駅みま ●シロシタ ●宇和島商工会議所 ●南楽園 ●かどや(駅前本店・弁天町店・味奈味) ●ハイウェイレストラン宇和島 ●和日輔 ●福DON ●盛運汽船 ●岩崎書店 ●木屋旅館 ●はまゆう薬局 ●ひまわり薬局 ●JR宇和島駅 ●JR松山駅 ●小野商店(津島) ●安藤コーヒー ●べにばら画廊 ●アトリエぱれっと ●香川・愛媛 せとうち旬彩館(東京) ●宇和島信用金庫各支店 他
「つなぐ」の発行は、新春号(1月)、春号(4月)、夏号(7月)、秋号(10月)です。 ※「宇和島クラブ」協賛業者



宇和島信用金庫

— この街が好き、この街と未来を拓く —